

広報 つきがた

No. 99

昭和53年2月10日発行
発行/新潟県月潟村役場
毎月10日発行 1部10円
(昭和52年7月22日第三種郵便物認可)

人口動態	1月31日現在		1月中の異動	
	世帯数 797	人口総数 3,867	出生 6	転入 9
	(男 1,887)	(女 1,980)	死亡 3	転出 2



寒さを吹きとばせ!

心身を鍛えるスポーツ少年柔道寒げいこ

エイーツノ ヤツノ オーバーのエリを立てて中に入ると、広い体育館いっぱい黄色い元気のよい声が響きわたっています。ここは、西公民館。スポーツ少年団の柔道の寒げいこです。現在の団員数は、四十人。毎週火曜日の夜になるとみんながこへ集まってきました。大人でも寒さ

「世界」の石油消費量は年々ふえ続け、一九七〇年代の十年間に使う量(推定)は、人類が石油を使い始めてから今日までの百年間の消費量と、ほぼ同じと言われています。たいへんなハイピッチですね。

いったい地球には、どれだけの石油があるのでしょうか。これには色々な説がありますが、いま確認されている埋蔵量だけですと、あと三十年で使いつくすといわれています。このため、大陸の奥地や大陸だなどでは油田を捜す努力が続けられています。

しかし、発見されたにせよ、使える量には限界がありますし、石油資源が減少の一途をたどることは事実です。石油の不足、資源有限が叫ばれるゆえんです。

二月は「省エネルギー月間」です。私たち一人一人がちょっとした工夫や智恵で毎日使っているエネルギーを節約できれば、それがたとえわずかであっても、日本全体では膨大な量になります。

この機会に、みんなでエネルギーの節約を考えてみましょう。

二月は「省エネルギー月間」ムダ使いより心づかいを!

灯油やガソリンなど、私達の暮らしは、エネルギーとは切っても切れない関係にあります。炊事や洗たくはもちろんのこと、明かりをつける、テレビを見る、これらすべてが電力やガスというエネルギーに頼っています。

しかし、エネルギーには限りがあります。例えば

石油 エネルギーの王様

私たちが毎日使う電気の約七割は、石油を使う火力発電によるものです。ガスも約半分は石油が原料です。私たちの生活は石油に支えられています。事実、日本のエネルギーの七四％は石油です。しかも、その九九・七％を輸入に頼っているのが現状です。

その量は、年間約三億キロワット、二十万トン、タンカー約千五百隻分に相当し、世界の消費量の一〇％ものほっています。これを輸入額で見ると、五十二年度は六兆五千五百十三億円で、総輸入額の三三％を占めています。

「寿命」あと三十年

この機会に、みんなでエネルギーの節約を考えてみましょう。